

---

---

## 令和4年度 第1回練馬区子ども・子育て会議議事録

---

---

[日 時]

令和4年7月19日(火)午後6時30分から午後8時00分まで

[会 場]

練馬区役所本庁舎地下2階多目的会議室

[出席者]

熊谷委員、斎藤委員、仙波委員、檜垣委員、吉田委員、梅澤委員、田中委員、土田委員、戸田委員、森山委員、小櫃委員、藤岡委員、大橋委員

(事務局)

こども家庭部長、こども施策企画課長、子育て支援課長、保育課長、保育計画調整課長、青少年課長、子ども家庭支援センター所長、学務課長、こども施策担当係長

[欠席者]

小池委員、鈴木委員

[傍聴者]

2名

[次第]

- 1 令和4年4月の待機児童数について
- 2 意見交換  
【テーマ】子育てにおいて大切だと思うこと
- 3 その他

- 【会 長】 ただいまから、令和4年度第1回練馬区子ども・子育て会議を開催します。  
本日も前年度同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応中であることを考慮して、会議を進めていきたいと思ひます。円滑な会議運営にご協力をよろしくお願ひいたします。
- 本日は、年度が変わって第1回目の会議です。事務局の構成員に変更がありましたので、紹介をお願いします。
- (事務局の紹介)
- 【会 長】 それでは次に、事務局から配付資料および委員の出席状況につきまして、ご報告をお願いします。
- 【事務局】 (配布資料の確認)  
本日の出席状況について、報告します。本日の出席者は、委員15名中、13名です。委員過半数の出席を得ておりますので、会議は有効に成立しています。
- 【会 長】 それでは、議事に入ります。  
はじめに、次第1、「令和4年4月の待機児童数について」です。事務局から資料の説明をいただいてから、ご意見を頂戴します。  
では、事務局からお願いします。
- 【事務局】 (資料1-1・1-2の説明)
- 【会 長】 ご意見やご質問等がありますか。  
続きまして、次第2「意見交換」です。昨年度は「子どもの健やかな成長のために大切だと思ふこと」をテーマに、意見交換を行いました。今年度も、委員の方同士で活発な意見交換や情報交換ができればと思ひます。  
今年度のテーマは「子育てにおいて大切だと思ふこと」です。ご自身の子育てや地域での活動の中で、子育てにどんなことが必要と感じたかなど、日頃から思っていることで結構ですので、お話しいただければと思ひます。  
それでは、まずは公募委員の方々からご意見をいただきたいと思ひます。
- 【委 員】 練馬区は、育児支援が充実していると思ひます。しかし、多子世帯への支援内容が改変されるとより使い勝手が良くなると思ひます。  
例えば、練馬区には子どもが2歳になるまで、妊娠中から使える育児支援ヘルパー事業があります。多胎、切迫流早産など、ハイリスクな妊産婦の場合は、利用限度時間が通常よりも長く、104時間利用可能ですが、サービスを利用する場合は母親の同伴が必要となります。しかし、そのような状況では通院が増え、家に不在になりがちです。また、子どもが複数いると、家のこともしなければなりません。入院してしまった際は、より家事や育児のフォローをしてほしいです。  
また産後も育児支援ヘルパー事業は利用できますが、母親と生まれた子がいる状態で、育児支援を受けなければならないという制約があるため、育児支援ヘルパー事業とファミリーサポートや一時預かりを組み合わせるなど、柔軟性を持たせた支援になるとありがたいです。これは一例ですが、子育てがより多くの家庭でしやすくなることを願っています。
- 【会 長】 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

【委員】 私が子育てにおいて大切だと思うことは、親と地域と社会の三者が一体となり、同じ方向を向くことです。自分に余裕やゆとり、遊び心がないと子どもに良い影響を与えられないと感じます。

社会としては制度や理解、地域としては育児支援の場として保育園の園庭開放などが助かるので、そこが練馬の良さだと思っています。

考えていただきたいのは、地域別の休館日です。子ども家庭支援センターは日曜日が休館日、区立児童館は日曜日や祝日が休館日なので、日曜日の行き場がないと感じます。日曜休みの家庭ばかりではないので、休館日が全部一緒でなくてもいいと思います。例えば、子ども家庭支援センターの休館日には児童館が開いていると良いと思います。

全国的な調査の結果でも児童館は日曜日が休館日のところが多いですが、利用者としては、日曜日や祝日の居場所が確保できればと思っています。

【会長】 ありがとうございます。ほかにありますか。

【委員】 練馬区では安心して子育てをするための取組を行っていますが、安心してということは、子育てに対して見通しを持てることだと思います。今後、子どもの年齢とともに、どのような区の支援や民間サービスを利用して、生活の維持・向上が出来るかを見通しを持てる、安心して子育てができるところに近づくとと思います。

先ほど他の委員が発言されたように様々な支援が練馬区にはあり、感謝しています。それぞれのサービスの利用方法や内容は、インターネットなどで確認することができますが、実利用者の生の声やどのように生活の場で活用しているかなど、利用前に見えにくいです。

子育てをしていると、自分の子どもよりも年齢が上の子どもがいる保護者の情報が大変役立ちます。例えば、この学年になったら、このようにすれば生活維持ができるかもしれないと想像することができます。そういうもので少しずつ安心し、さらに情報を調べていくと私たち自身もつながっていくと思います。子どもの年齢の縦割りの保護者同士で交流して、情報交換をする場や支援を実際に利用した方の口コミなどが見える取組を、民間は多く行っています。区でも、そのような取組があれば、私たちも区が実施していることで安心感を持ち、活用できると思います。

【会長】 ありがとうございます。利用者の方々の声をしっかりと聞いていただければと思います。ほかにいかがでしょうか。

【委員】 男性の子育てという視点から重要なのが、育児休業だと思います。育児休業は、男性にとっては社会や地域に対する見方が変わる経験であり、ジェンダーギャップ指数が非常に高い日本において、最初で最後の社会を見直すチャンスだと思います。

育児休業を取得することにより、第2子が生まれやすいというデータも出ており、第1子、第2子と生まれやすくするために、社会全体で男性の子育てを促進することが重要だと思います。もちろん、ワーク・ライフ・バランスも大切ですが、男性の育児休業の取得率や期間を延ばすことは重要だと思います。

【会長】 ありがとうございます。それでは、いかがでしょうか。

【委員】 私は、労働力不足を補う対策の一つとして、国が女性の活躍や社会進出を掲げており、そのために少子化対策や様々な子育て支援の施策を打ち出しているという認

識です。これを背景に、各地方自治体で子育て支援の会議体を設けていると思っています。前提が働くために子どもをどうするかという視点であり、その観点から議論されているという認識です。「子育てにおいて大切だと思うこと」というテーマ設定は、大人に保護者として忘れていた何かを気づかせる非常にいい機会になると私は率直に感じました。

以上を前提に、子どもと一緒にいることが非常にシンプルですが大切なことだと考えます。子どもが帰宅したときに、家に保護者がいることが大切だと思います。子どもと今日あった出来事など、些細なコミュニケーションをとれる時間が物理的に大切だと思っています。そうすると、仕事との両立が課題となりますが、主に予算の使い方の話にフォーカスすべきだと思います。

例えば、区が用意しているハードやサービスがありますが、発想を逆転させ、働いていれば得られたであろう収入を保障するという考え方も、選択肢としてあっていいと思います。失業した場合などは次に働くまでの間、手当が支給されるようなイメージです。ハードを整えることと収入を保障することの、どちらに費用対効果があるのか、財源としてどれくらい必要なのかも含め実現性を検討することは、一つの手だと考えます。

ハードについては、様々な子育て設備にリモートワークができるような機能を足して、発展的に活用するというやり方もあると思います。このように、収入保障とハードの両輪で行うことができれば良いと思います。

子どもや子育てにとって大切なことは、働くために子どもをどうするのかではなく、子どもとの一緒にいる時間を確保することだと思いました。

【会長】 ありがとうございます。公募委員の方々からいただいた様々なご意見も踏まえながら、団体を代表されているの方々からのご意見をいただきたいと思います。

【委員】 先ほどお話があった、母親がいる時にしか受けることができないサービスについてです。私は幼稚園を経営しておりますが、子どもを預かって怪我や死亡事故があった場合大変なことになります。そうした場合の損害や賠償などを行政が後ろ盾になる制度が必要だと思います。子どもに対する様々な取組に対して、そういった補償が必要だと思います。

話は変わりますが、先日新聞記事を見ましたら、日本の子どもたちの精神的幸福度は38か国中37位でした。いかに子どもの精神的幸福感が低いのかと感じました。一方で、日本は子どもの身体的健康は1位です。また、高い経済力も持っています。その中で、なぜ子どもの精神的幸福度が37位なのでしょう。様々な原因があると思いますが、一つは日本の子どもが、自己肯定感や自己信頼感を持っていないことが原因だと考えます。これは、貧富の差が開いてきたことなど暗い話題ばかりが、メディアに溢れているような社会の在り方が要因だと考えます。

もう一つは、子どもたちの今の幸福などが大事にされておらず、今が評価されていないことが原因だと考えます。子どもの発達にとって、仲間と遊ぶことや昆虫や魚をとるなどの、自己満足が必要だと考えます。幼児教育の研究をしていると、自己肯定感や自己信頼感を育てるためには、子どもたちが思いっきり自分の好きなことに没頭しなければいけないと思います。今は遊ぶのは我慢して次に、次に行けば

また新たな目標が出てくるという育て方が一番日本の子どもたちの幸福感を阻害していると思います。これは国全体で考える必要がありますが、区でも子どもたちが幸福感を増長できるような施策が必要だと思います。

また、保護者の公立学校に対する信頼感が薄れているとも感じます。教育委員会に考えていただき、区民の公立学校に対する信頼感を取り戻してほしいと思います。

【会長】 ありがとうございます。

【委員】 私は東京都社会福祉協議会児童部会の代表をしています。

現在、要保護児童の数が非常に多いという報告を聞いています。まだ発見や認知がされていない児童も多いただろうということです。保育園などは最も要保護児童を発見しやすい場所ですので、アンテナをしっかりと張ることが必要だと思います。

練馬区は保育園の待機児童がないことは非常に良いことだと思います。後は、家庭で何が子どもたちに対して起こっているのか見ることが大切だと思います。ひとり親家庭の場合には親の様子も把握することが必要だと思います。親が入院しなければいけない時には、レスパイトケアを行う必要があります。また、要保護児童は1～2週間程度の支援や保護が必要ですが、裁判所の判断が必要になる場合もあり、保護に結びつかない現実があります。保育園でしっかり見ることや、学童クラブなどに優先的に入れるようにするなどの対応は必要だと思います。

また、家庭復帰する際に、年度途中から保育園に入れる仕組みも必要だと思います。なかなか優先的にというのは難しいかもしれませんが、そういう方の受入れに特化したものも必要だと思います。

【会長】 ありがとうございます。ひとり親家庭になるプロセスの中で、パートナーの支えや夫婦関係の支援も背景にあると思います。それでは、お願いします。

【委員】 私立保育園の代表をしています。「子育てにおいて大切だと思うこと」というテーマを見て、子どもと過ごす時間を増やすことだと思い今日ここに来ました。先ほど公募委員から育休の取得や、子どもと一緒にいることが大事という発言があり感動しました。私の保育園でも、最近父親が仕事の都合をつけて子どもといる時間を過ごすことが増えており良いことだと思っています。夫婦が協力して時間を作り、保育園はなるべく短時間で利用して、家族や子どもと過ごす時間を多く取ることが一番良いと思います。

ただ、国の施策がそれとは逆の方向です。保育園に子どもを預けている保護者の子どもと過ごす時間は、幼稚園に通わせている保護者や専業主婦などに比べて少ないと思います。それを意識して、仕事の都合をつけ子どもを迎えに来て、一緒に過ごすことを大事にしてほしいです。私は子どもと過ごす時間は質よりも一緒にいる時間の長さのほうが大切だと思っています。そうしないと、子どもは親のことがよく分からないし、親も子どものことが分からなくなっていくと思います。そうすると、親子の愛着や信頼、愛情が薄くなっていきます。それは、子どもにとって幸せではないし、親にとっても幸せではないと思います。

まずは共に過ごす時間を増やすことが大切です。企業にはそれを推進する施策を、行政には、子育てや家庭を大切にすることを推進する施策を行ってほしいと思います。それと同時に、今まで自分達は働いて、保育園に子どもを育ててもらおうという

ことが進んできたと思いますが、それを家庭に戻して、直接経済的に支援するほうが良いと思います。

保育園の整備に税金を投入するよりも、家庭に直接投入して支援したほうが、社会や保育への負担が減り、良いのではないかという話が昔からあります。子どもが増えないと経済は発展しません。人が減ると経済もしぼんでいきます。だから今、経済発展を考えるより、子どもとの時間を増やすことで生活や子どもと過ごす喜びを大人が知り、多くの子どもが欲しいと思ってもらうほうが良いと私は考えます。

私は、保育園はセーフティーネットであればいいと思っています。保育園と幼稚園が同じような形になり、人員や保育の中身が充実し子どもたちが短い時間で豊かな良い環境で過ごし、また家庭に戻るといった社会ができてほしいと思いつけています。

【会長】 ありがとうございます。どうぞ。

【委員】 私は現在、社会福祉法人の理事をしており、学童クラブの運営も行っています。職員から、子どもは学校が終わると学童クラブに行き、その後は塾にも通うという話を聞き、今の子どもは本当に忙しいと思いました。子どもの視点に立った時、子ども自身が毎日こういう生活をしたいのか疑問に思いました。また学校が休みの日も、児童館などの施設に行きますが本当に行きたいと思っているのかは分かりません。私自身も知的障害の子どもを育てていましたが、本人主体という考えが浸透しており本人の気持ちを中心です。子どもが毎日、お弁当を持って塾に行くような生活は本当に幸せなのかなと疑問に思います。

先ほど幸福度の話もありましたが、今子育て中の人は本当に働かないと経済的にも厳しいという状態で、好きで子どもを外に出しているわけではないのではないかとともに思います。

先ほど述べた学童クラブでは障害児も受け入れており、ほかの児童たちと一緒にいます。そうすると、子どもたちの障害に対する理解も進み学童クラブに通っていた健常の子が、今度は支援員になって戻ってきたという嬉しいことがありました。ヤングケアラーの問題もありますし、共生社会の実現に向けても障害をお持ちや悩んでいる人との共生も考えて欲しいと思います。

療育では計画を作成する必要があります。そこで、母親が泣いてくるそうです。子どもが小さいうちは、健常か障害児かなかなか分かりません。特に発達障害や知的障害の場合は、この子はどういう子だろうというところから育児が始まります。私もそうでした。多くの教材を手作りするなど、様々なことをしました。しかし、幼稚園に行こうとしたら、療育に行ってくださいと言われました。そういうことを言われた保護者は、非常に傷つきます。

先ほどもお話がありましたが、孤独な親や1人で療育や子育てをしている親も多くいるのでつながりを持つことや、話を聞いてくれるところ、レスパイトサービスがある場所などが大切だと思いました。健常の人だけの幼稚園、保育園または学童クラブではなく、こういう人たちがいるということも心にとどめてもらいたいです。

子どもには幸福感を持ち健やかに育ててもらい、また、親も子育てを楽しんでほしいです。ハード面は充実しているので、ソフト面の充実を区には求めます。支援

力の向上や相談を受け止めること、どこかにつなげることなどをお願いしたいです。

【会長】 ありがとうございます。よろしくお願いします。

【委員】 民間学童クラブを運営しています。

私も子育てにおいて大切だと思うことは、つながりを持つことだと思います。家庭内での時間を持つことも非常に大事だと思いますが、この社会の中でそれが難しくなっているのが現実です。今の時代では親の支援もしつつ、子どもも見るということ地域全体で行うことが大事だと思います。

行政もきちんとつながってもらいたいです。様々な相談場所がありますが、同じことを幾つもの部署に説明しなければならないとよく聞きます。区の中で連携してもらい、それをもとに私たちも地域でつながりを持ちながら、幼稚園から大学までつながれるようにしたいと思います。区には良い人材がたくさんいると思います。それを活かすためにも、このような会議で内容を吸い上げて、地域のために活かせることを考えつつ、子どもが練馬区にいて良かったと思うような区にしてもらいたいです。

学童クラブでは保護者から、保護者の会をつくり作りたいと提案がありました。私は、子どもに関わりたい親は多くいると思いました。難しい部分もありますが、私はぜひオープンにして様々なことをお手伝いしてもらいたいと考えています。コロナ禍ですが、現在8割ぐらいの保護者が登録しています。このように、少しずつでも横のつながりをつくり、公的なところともつながりを持つ学童クラブを活かしてもらうためにも、行政がもっとオープンにするべきだと思います。よろしくお願いします。

【会長】 ありがとうございます。どうぞよろしくお願いします。

【委員】 民生児童委員・主任児童委員をしております。

今回のテーマである「子育てにおいて大切だと思うこと」について、自分の子育てで言えば自分の後ろ姿を見て、子どもが育ってくれたと非常に強く感じています。

活動の中で、ネグレクト家庭の子どもたちの対応もしています。抱きしめてあげることや褒めてあげること重点を置いて子育てをすると、立派に育つのではないかと日頃から思っています。子どもたちには、普通の家庭を知ってもらうことに手を差し伸べるべきだと考え活動しています。

私は、ご近所や友達などの輪を広げることで、よりよい子育てができると思っております。身近な学校の先生などに助けを求めれば、幾らでも話を聞いてくれると思うので、最大限に活用して自分たちなりの子育てに励んでもらいたいと思います。

【会長】 ありがとうございます。

それでは、副会長からよろしくお願いします。

【副会長】 皆様から様々なお話があり、どれも本当に重要だと思いました。今、子どもも親も本当に忙しく、孤立しているという状況があると思います。子どもも親も孤立しないことが今の子育ての中で、非常に求められていると感じます。子育てをしていると、親子だけになることや、親がとて忙しくて子どもをひとりで放置していることもあると思います。また、保育園や幼稚園などで子どもたちが長時間生活して、親との時間が少なくなってしまうなど様々な状況があります。そうした中で、子ど

もも親も孤立しない状態をどのように作っていただけるのでしょうか。

これは、中長期的な課題だと思いますが、どういう生活をしていくかということだと思います。今、多様性ということが大事にされながらも、親だけではない地域の大人たちと触れ合う機会が、子どもが育っていく上で重要だろうと思います。幼稚園や保育園など、様々な子どもたちの施設だけではない、地域の様々な人と関わる場が作れないだろうか考えています。

そういったことは、少しずつ取り組まれているのではないかとと思います。行政の中で始まっている取組もあります。利用されている方々の意見をさらに聞きながら、今ある取組をさらに充実し、また新たな取組もできるのではないかとと思います。

親も様々な価値観に触れることが、子育てに豊かなものをもたらすようにも思います。親と子どもが様々な人と触れ合い多様な価値観に触れ、様々な視点から見ることによって、心豊かに安心して子育てができるのではないかとと思います。そうしたことへの取組を、まずは実現していくことが大切だと思います。それは、地域の中からも実現できると思います。それを支えている行政の仕組みも重要になると思います。このようなことから始めると、豊かな子育てにつながるのではないかとと思います。ありがとうございました。

【会長】 ありがとうございます。ご意見と、それから皆様の意見を踏まえながら、まとめていただいたところです。

私からも皆様の意見を踏まえながら、話をさせていただきます。子育て支援を考えたときに、子どもを中心に据えながら、周りの大人たちがどう連携し、子どもたちの幸せを考えていくのが大事だと思いました。そのためには周りの人たちの幸せも深める必要があります。次世代を育てる子育てに、非常に喜びがあるにも関わらず、仕事に追われ身を粉にして働きます。もっと豊かな社会を目指すためには、一人ひとりが果たす役割に、もっと子育てという視点があると良いという意見が出てきて、非常に嬉しかったです。

スウェーデンでは、ワーク・ライフ・バランスの中で子育てを見直しており、育休を取るか選択できます。仕事を通して社会貢献、そして子育てを通して社会貢献という位置づけが非常に均等です。先ほど育休を取得するに当たったの経済的な保障という話がありましたが、それが進んでいるからこそ安心して育休が取れるのではないかとと思いました。

日本は、親が非常に責任を負うところがあります。親に対するプレッシャーがあると思っており、できるだけプレッシャーがかからないようにしながら、みんなで育てていくことが大事だと思います。様々な声を踏まえながら、また練馬区の施策に生かしていただければと思います。

それでは最後に、次第3「その他」ですが、何か皆様からございますか。

【委員】 豊島園（旧「としまえん」跡地。以下同じ）周辺の住民の方々は、もし大きな災害が起きたとき、豊島園が利用できるのか非常に気にかけています。今、工事中で、開いているところは1か所しかありません。周りに万を超える住民がいて、その中に、子どももたくさんおり、幼稚園、保育園、小学校も周りにたくさんあります。豊島園は非常の時に使用できるのか、食料水、食料、医薬品等が管理されているの

か疑問です。豊島園が利用できないというのは、大きなダメージになりますので、区にご質問したいです。お答えをお願いします。

【会 長】 よろしいでしょうか。お答えできますか。

【事務局】 後日、担当部署に確認を行い回答いたします。

[大きな災害が起きても、自宅や周辺に火災の心配がなく、また建物に倒壊の恐れがない場合には避難する必要はありません。自宅や周辺の家屋に倒壊や火災の危険がある場合に、近くの避難拠点(全区立小・中学校)に避難してください(水、食料、生活必需品および各種資器材の備蓄有)。都は、「豊島園」を地震時に拡大する延焼火災の危険等から避難拠点では安全な避難ができない場合に、一時的に避難する「避難場所」の一つとして指定しています。「豊島園」は、工事期間中においても区、都および事業者の協議により、「避難場所」として使用可能とされており、避難の際は、区が出入口の鍵を開け、避難者を受け入れます。]

【会 長】 ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。

【委 員】 今、子育てはワンオペ育児などのネガティブなワードであふれていて、基本的につらいことだという前提で始まっていると思います。そこで、子育てはもっと楽しいことだという発信が必要だと思います。

私の子どもは川遊びなどが好きですが、今では私のほうが川で積極的に遊んでいます。そのような姿を見せることによって、ほかの子どもにも楽しみ方が伝染していくと思います。ただ遊んでいる子どもを見ているだけではなく、大人が積極的に遊びに関わっていくことが大事だと思います。

【会 長】 ありがとうございます。スウェーデンで子育てを支援する方々は、とにかく子育ては楽しいことだとおっしゃっていました。だから、子育ては苦しいことや大変なことという負担感を低減する工夫と、親自身あるいは、支援者の方々が楽しむことが非常に大事なことだと思います。ありがとうございました。

いかがでしょうか。

【副会長】 前回、3月に会議がありました。その際に、練馬区公共施設等総合管理計画について報告がありました。その後、4月に成案化されたものを送付いただきました。その中で、とても重要なことが示されておりました。書かれていることを読み上げたいと思います。

22頁ですが、「保育サービスの充実を図るため、谷原保育園の近隣に民間保育園を誘致します。谷原保育園以上の定員とし、障害児保育は区立園と同じ定員3名とするほか、新たに延長保育や0歳児保育を実施します。谷原保育園は、築55年が経過し、老朽化が進行していることから、在園児(令和4年度入園を含む)が全員卒園する令和8年度末を目途に閉園します。引き続き、保護者からの相談に応じるとともに、異年齢交流などを検討します。」とあります。

この件は、大変重要だと思います。保護者の方からも様々なご意見があると思いますが、閉園時期を在園児が卒園する令和8年度とするなど、園に通う子どもや保護者に配慮する姿勢も見られます。現在も行っていると思いますが、引き続き保護者の声を聞きながら、丁寧に進めていくことが重要だと思います。保育の質や子育ては保護者にとっても大変重要なことだと思います。保護者の声を聞きながら気持

ちを受け止め、引き続き丁寧に説明してほしいです。

練馬区には様々な保育施設があります。どこに子どもが通っても、質の高い保育を受けられることが、大変重要だと思っています。この件に関しましては、引き続き丁寧に対応していただきたいと思いましたが、一言申し上げました。よろしくお願いたします。

【会 長】 ありがとうございます。副会長からのお話ですが、私からも一言述べさせていただきます。保護者のご意見を伺いながら進めることが、とても大事なことです。常に我々は子どもを中心に据えて、大人が連携し合い、横のつながりやそれぞれの中での子どもに対する思いを語り合うことが大事だと思っています。

その意味において、当然のことながら、子どもたちの幸せを前提とし卒園ができるように進めてほしいと思います。記載されているように異年齢交流などを検討するとありますが、それらもしっかりと進めていただきたいです。

それでは、よろしいでしょうか。

最後に事務局から次回の予定等についてお願いします。

【事務局】 本日は委員の皆様から様々なご意見をいただきありがとうございました。区は、子育てのかたちを選択できる社会の実現と、子どもの成長に合わせた切れ目のないサポートを充実することに重点を置き、子育て支援に取り組んでいます。

本日いただいたご意見について、今後の参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

次回の会議については、12月の開催を予定しています。日程は、改めて個別に調整します。よろしくお願いたします。

【会 長】 本日は、これで閉会といたします。皆様、ありがとうございました。

了